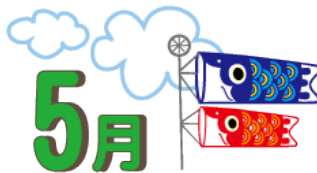


ほけんだより



平成29年5月1日
横浜市立白根小学校
保健室

新年度がスタートし、早いもので一か月になろうとしています。新しい生活に慣れるとともに、不安や緊張をかかえながら過ごしていることと思います。元気に学校生活を送るためにも、朝の登校前にお子さんの健康観察をお願いします。



健康診断はなぜあるの？

春になると必ず学校で行われる健康診断。歴史は古く、日本の学校で健康診断が行われるようになったのは、明治時代からです。強い国づくりを目指していた当時の日本において、子どもたちの健康管理は重要な国策の一つでした。そこで、学校による身体検査が始まりました。時代と共にその位置づけは変わり、現在では学校の健康診断は「**子どもたちの健康管理の柱**」となっています。



健康診断の目的

① 自分のからだについて知る

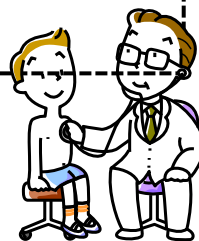
自分の体の成長や、どこか具合が悪いところがないかなどを知ることができます。

② 病気の早期発見と早期治療

さまざまな検査を通して、病気を早く見つけることができます。また早く治療することにもつながり、病気の悪化を防ぐことができます。

白根小学校の校医さんをご紹介します！

- ・内科・・・石田 久人先生
- ・歯科・・・藤澤 直樹先生
- ・眼科・・・天野 和子先生
- ・耳鼻科・・・土屋 由子先生
- ・薬剤師・・・寺尾 雅巳先生



色覚検査についてのお知らせ

「色覚検査」は、学校保健安全法の法改正のため、平成15年度から実施しなくなりました。これは色覚異常と判別されても、支障なく学校生活を送れることが明らかになってきたことなどによるものです。ただし、色覚異常は、先天性のもので治療法がありません。将来職業・進路選択をする前に、色に対するお子さんの特性を確認するため、学校での簡易色覚検査を希望する場合は、各担任に連絡ください。対象は、今まで検査を受けたことのない児童です。



主な学校感染症一覧表

学校感染症はたとえ軽症でも登校できません。診断された場合には学校に連絡をして下さい。その後は医師の指示にしたがい、登校の許可が出ましたら学校より「健康手帳」をお渡ししますので、登校時に①病院名、②医師に出席停止された期間、③保護者の方のサインを記入して担任へ提出をお願いします。

○第1種学校感染症 治癒するまで出席停止

エボラ出血熱・クリミアコンゴ出血熱・ペスト・マールブルグ病・ラッサ熱・急性灰白髄炎・コレラ・細菌性赤痢・ジフテリア・腸チフス・パラチフス

○第2種学校感染症 学齢期に多い感染症

病名	出席停止	主な症状	潜伏期間	感染期間	好発季節
インフルエンザ	発症後5日経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで	急な発熱、頭痛、関節痛、全身倦怠感、咳、鼻水、のどの痛み	1～3日	発病後3～4日	冬 12～3月
百日咳	特有の咳が消失するまでまたは5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	コンコンという短く激しい咳が続く	1～2週間	発病後28日	夏
麻疹 (はしか)	解熱後3日を経過するまで	発熱、咳、鼻水、目やに、結膜充血、頬の内側にコプリッ班(白点)ができる。発熱後4日目より皮膚に発疹	1～2週間	発疹の出る5日前～後4日	冬～春
流行性耳下腺炎(おたふく)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	37～38℃の発熱。片側～両側のあごの後ろが大きく腫れて痛む、食欲不振、嚥下困難	1～2週間	発病7日前から発病後9日	冬～春
風疹(3日ばしか)	発疹が消失するまで	発熱、発疹、耳の後ろ・首・脇の下などが腫れる。咳、結膜の充血	2～3週間	発疹のでる7日前から、でた後の7日間	春～夏
水痘(水ぼうそう)	全ての発疹が痂皮化するまで	水疱のある発疹が体中にできる。かさぶたになり先に出たものからなおっていく	2～3週間	発疹のでる1日前からでた後の6～7日	冬～春
咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消失した後、2日を経過するまで	発熱、のどの痛み、結膜の充血、首のリンパ節の腫脹	5～7日	発病後2～3週	夏～秋
結核	伝染のおそれが無くなるまで	初期は自覚症状無し X線で発見されることが多い。疲労感、寝汗、微熱、体重減少、肩こり、咳、たん	1～2ヶ月		なし
髄膜炎菌性髄膜炎	伝染のおそれが無くなるまで	高熱、頭痛、嘔吐、頸部硬直 直早期の治療が必要	2～5日		なし

○第3種学校伝染病 第3種については治癒していなくても診断によっては出席停止とならない場合もあります。医師の指示に従って下さい。

流行性角結膜炎・腸管出血性大腸菌感染症(O-157)・その他の感染症